

事業コード	H30-建-継-23			区 分	● 国庫補助 ○ 県単独
事業名	広域河川改修事業			部局課室名	建設部 河川砂防課
事業種別	河川改修			班 名	河川・ダム・海岸班 (tel)018-860-2514
路線名等	一級河川 横手川			担当課長名	河川砂防課長 小野 久喜
箇所名	横手市本郷			担当者名	副主幹(兼) 班長 加賀 良宏
プランとの 関連	政策コード	01	政 策 名	県土の保全と防災力強化	
	施策コード	01	施 策 名	災害に備えた強靱な国土づくり	
	指標コード	01	施策目標(指標)名	中小河川における減災対策の推進	

1. 事業の概要

事業期間	S44~H40 (60年)	総事業費	217 億円	国庫補助率	1/2	
事業規模	計画延長 L=6, 120m 計画高水流量 Q=1, 100m ³ /s(1/50)					
事業の立案 に至る背景	横手川は、奥羽山地から横手盆地に出た扇状部に位置し、S字状に屈曲しながら流下しているため、度重なる洪水被害が発生している。 特に、市街地の3分の1が浸水した昭和40年水害は、床上浸水1, 149戸、床下浸水2, 955戸の被害に見舞われている。					
事業目的	横手川の氾濫による災害を未然に防止し、民生の安定を図るために河川改修事業を行うものである。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	21,700,000	21,700,000	0		
	経 費 内 訳	工事費	7,835,000	7,835,000	0	
		用補費	11,301,000	11,301,000	0	
		その他	2,564,000	2,564,000	0	
	財 源 内 訳	国庫補助	10,850,000	10,850,000	0	
		県 債	9,765,000	9,765,000	0	
その他		0	0	0		
事業内容	一般財源	1,085,000	1,085,000	0		
事業内容	築堤、護岸、排水樋管工等	築堤、護岸、排水樋管工等				
事業の進捗 状況	<ul style="list-style-type: none"> ・全体事業費 217億円 ・平成29年度未投資額 185.84億円 ・事業進捗率 85.6% 					
事業推進上 の課題	残区間の整備にあたっては、新技術の積極的採用を進め、環境保全対策と調整を図りながら、コスト縮減を推進し、事業の進捗を図っていく必要がある。					
関連する計 画等	「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」において、6つの重点戦略とあわせて推進する基本的な政策として「県土の保全と防災力強化」が位置づけられている。					
情勢の変化 及び長期継 続の理由	横手市街地中心部の河川改修であるため、用地取得、補償と移転先確保に多大な時間を費やすこととなったほか、県全体での予算制約と全域域での浸水被害発生による情勢の変化により、事業期間を延長する必要がある。					
事業効果把 握の手法及 び効果	指 標 名	河川整備率				
	指 標 式	河川改修済み延長/要改修延長				
	指標の種類	○ 成果指標	● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無	
	目 標 値 a	45.9%		データ等の出典	河川砂防課	
	実 績 値 b	46.0%				
達成率 b/a	100.2%		把握の時期	平成30年 3月		

前回評価結	● 選定または継続 ○ 改善 ○ 見直し ○ 保留または中止
	①指摘事項
	特になし
	②指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評価の内容 (特記事項)	評 価 点
必 要 性	平成17年度迄に、近年災害のあった区間について緊急特別対策事業が完成しているが、下流区間の治水安全度が低いため、河川改修を推進し、横手川が一連として目標とする治水安全度を達成できるよう、地域住民より早期の完成が強く望まれている。	30点
緊 急 性	現況河川の流下能力が低く、河道が激しく蛇行を繰り返しており、川幅も狭小であるため、大規模な洪水が発生した場合には、甚大な被害が想定されるため緊急性は高い。	8点
有 効 性	過去に河川改修を実施した区間については、浸水被害の発生が無いなど、災害防止等効果が発現されていることから、有効性は高い。	15点
効 率 性	(費用便益比) 事業の費用便益は21.11であり、効率性は高いと言える。 (コスト削減の取組状況) 河道計画を見直し、家屋移転を最小限としてコスト削減を図り、河川改修事業の促進を図っている。	15点
熟 度	(地域の状況) 昭和40年7月の横手川氾濫により甚大な被害を経験している市民から、事業の早期完成を要望されている。 (環境対策) 工事に際し、生態系に配慮して早期の復元が可能なブロックの使用や、城下町の景観に配慮した石積み護岸を実施している。	19点
判 定	ランク (●Ⅰ ○Ⅱ ○Ⅲ) 地元からの要望が強く、「必要性」「有効性」「効率性」等から、事業の重要性は高く評価できるため、整備を継続し早期完成を目指すべき	87点
総合評価	● 継続 ○ 改善して継続 ○ 見直し ○ 中止 事業継続は妥当である	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等 (対応方針)

コスト削減に努めながら、事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

--

評価種別 継続箇所評価
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H30-建-継-23)
箇所名 (一級河川横手川 横手市本郷)

1. 評価内訳

観点	評価項目	細別	評価基準	配点	評価点	摘要	
必要性	想定氾濫区域内の状況	浸水戸数	50戸以上	10	10	4,104戸	
			49～10戸	7			
			10戸未満	3			
	浸水面積		60ha以上	10	10	1,913ha	
			59～10ha	7			
			10ha未満	3			
	重要な公共施設		3施設以上	5	5	朝倉小学校、横手保健所、横手市庁舎	
			2～1施設	3			
			なし	0			
	整備計画の策定						
	関係者、関係機関との調整		整備計画策定済み	5	5		
			協議中であるが特段問題ない	3			
策定に着手していないが予定がある			1				
予定なし			0				
計				30	30		
緊急性	災害発生の危険度	改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	5	計画流量1100m ³ /sに対し 現況流下能力770m ³ /s 70%	
			40～59%	7			
			60%以上	5			
	秋田県水防計画	重要水防地域	評定基準区分A	5	3	H30水防計画書より区分B	
			評定基準区分B	3			
計				15	8		
有効性	河川整備の有効性						
	安全度		災害防止等効果が発現する	7	7		
			災害防止効果は現状と変わらない	0			
	親水性		安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	5	緑化に配慮した護岸 高水敷整備	
			親水性は現状と変わらない	0			
	地域開発の状況		都市計画区域の存する地域	3	3		
地域開発の計画がある			1				
計				15	15		
効率性	事業の投資効果						
	費用便益比 (B/C)		1.0以上	5	5	21.11	
			1.0未満	0			
	事業実施コストの縮減	該当項目数	3項目以上	5	5	再生資材(砕石)使用 家屋移転の少ない河道計画 仮設資材の再利用	
			2項目	3			
			1項目	1			
			なし	0			
	当初計画との比較						
当初計画事業費からの縮減		減少または10%未満の増加	5	5			
		10%以上30%未満の増加	3				
		30%以上の増加	0				
計				15	15		
熟度	地元との合意形成の状況						
	地域住民の事業実施の意向		意向が強く要件の同意をクリアしている	5	3		
			意向が強く要件の同意を概ね得ている	3			
			意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1			
	市町村の参画		積極的に参画し要望書等の提出がある	5	3		
			参画している	3			
			参画していない	0			
	事業の進捗状況						
	進捗率 (事業費)		8割以上完了	10	10	(H29)185.84/(計画)217.00 =85.6%	
			5割以上完了	8			
1割以上完了			5				
1割未満			2				
環境との調和への配慮状況							
環境保全への配慮		システムでの環境配慮事項が3事項以上	5	3	自然環境に配慮した護岸構造 周辺環境(城下町の景観)と調和した 河道計画 排出ガス対策型車両や機械の採用		
		システムでの環境配慮事項が1～2事項	3				
		システムでの環境配慮事項がない	0				
計				25	19		
合計				100	87		

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
I	優先度がかなり高い	80点以上	I	
II	優先度が高い	60点以上～80点未満		
III	優先度が低い	60点未満		